

予算削減された敬老会 本来は行政が祝うべき

藤島地域の敬老会が28日（日）に東栄、6月18日（日）に長沼、24日（土）に八栄島、25日（日）に渡前の各地区でおこなわれます。

藤島地区は昨年度から地区開催をやめ、各町内会が補助金申請し独自に実施することを決めていきます。

鶴岡市は平成28年度から32年度にかけて段階的に敬老会補助金を1100円に統一するとしてきました。

藤島地域は補助金が大幅に減らされ、28年度に藤島地区は18町内会にアンケート調査をおこない、地区全体で実施が5に対し、町内会独自が9で、敬老会が実施しない4だったことから、地区実施をやめました。

世帯数の少ない町内会では実施が困難となり、昨年度は下中野目

がぎりぎりの12月24日に開催、越後京田は未開催になりました。

地区開催では予算削減に、ロールケーキとまんじゅう廃止（渡前）や、賄い料理と飲み物、記念品などを節約しています。

敬老会は本来、行政がお祝いすべきものであり、待っていたのに敬老者が祝われなかったことに、高齢者が出たことに、市長は痛みを感じるべきでしょう。

敬老会・招待者1人当たり公費負担額

合併前			H27予算	H28予算	H29予算
対象年齢	負担方式	1人当公費負担額	1人当補助金額		
鶴岡	73歳 補助金	1100円	1100円	1100円	1100円
藤島	75歳 実委へ委託	3150円+記念品	2400円	2200円	2000円
羽黒	70歳 行政直営	2730円	1200円	1200円	1200円
櫛引	71歳 行政直営	1855円	1400円	1400円	1400円
朝日	70歳 実委へ委託	2500円	2000円	1900円	1700円
温海	70歳 報償費	600円	1100円	1100円	1100円

※24年度で対象年齢は75歳以上、公費負担方式は補助金に統一。
喜寿（数え77歳）の祝い品（座布団）が廃止。

西						東									
前頭4	前頭3	前頭2	前頭1	小結	関脇	大関	横綱	前頭4	前頭3	前頭2	前頭1	小結	関脇	大関	横綱
渋谷	富樫	丸山	安藤	石川	板垣	阿部	斎藤	金内	本間	上林	富樫	石川	大井	海藤	加藤
一太郎	みち子	キミ	順次	とよせ	よしを	花子	春子	與蔵	松子	金蔵	サカエ	ふづこ	長治郎	はるめ	よしゑ
下通	十文字	ふじの花	八色木上区	八色木上区	温泉	駅前	下町	和名川	上町	ふじの花	下通	ふじの花	下川尻	ふじの花	ふじの花
98	98	99	99	100	101	102	103	98	98	99	100	101	101	103	106

祝 藤島地域の高齢者 平成29年5月1日現在

平成29年度敬老会日程 (5/10)

上町	9月3日
新町	9月頃
中町	9月18日
下町	9月18日
古郡	7月頃
大川渡	7月16日
谷地興屋	10月29日
下中野目	未回答
野田目	時期未定
越後京田	未回答
藤岡	9月17日
須走	9月18日
三和	9月10日
駅前	9月24日
新屋敷	7月9日
上平形	7月2日
下平形	5月21日
藤の花	9月頃
ふじの花荘	藤の花と合同
GHふじの花荘	藤の花と合同
GHあった家	中町と合同
きゃっと	
八栄島地区	6/24(土)
東栄地区	5/28(日)
長沼地区	6/18(日)
渡前地区	6/25(日)

庄内地方の凧文化 ⑬

たかが凧、されど凧の我が人生（三）
鈴木隆（小中島）

戦後、凧は長い空白時代を経て、忘れ去られていたが、再び息を吹き返したのは、昭和47年頃である。

庄内では各地に凧作りの気運が高まり、古来より凧揚げが盛んな藤島地域の空には、他に先駆けて愛好会のような有志による凧揚げ風景があちこちに見られるようになった。

中でも八栄島地区では、いち早く八民館（現活動センター）が子ども育成のメイン事業として位置づけ、鈴木昭男氏（農民写真家・故人）・太田辰吉氏（故人）を中心に、凧に長けた人が凧作り教室で子ども達に凧の魅力を指導したのは昭和45年からと記録に残る。

吉氏（うごん市経営者）や佐藤敏二郎氏（故人）がいて、毎年行われるようになった。

凧が漸く軌道に乗り始めた昭和48年、オイルショックが起き、トレットペーパーが店から消え、凧紙も入手困難な状況から凧作りを中止せざるを得ない所も出た。

オイルショックが治まった昭和50年頃には、三川町東郷小学校で凧揚げ大会が学校行事として行われ、本間源吾氏（庄内凧創始者・故人）がPTAや子ども達に凧作りを指導して以来、現在も毎年2月に凧揚げ大会が行われていることは頼もしい。

私も昭和55年から平成5年までの14年間にわたり、この事業に携わり、子ども達と凧を楽しんだ事を思い出す。



八栄島公民館凧揚げ・昭和49年



藤島小学校凧揚げ大会表彰・昭和56年

酒田では、阿部敏夫氏（元国鉄職員・故人）ら凧好き有志で子ども会などに凧作りの面白さを体験させ、普及に務めたのも昭和47年からであり、連鎖的に凧が魅力を誘い、この年の正月、鶴岡青年会議所の鶴岡凧の会主催で子ども凧揚げ大会が赤川土堤で開催された。その中心メンバーに凧に精通していた工藤祐

予算削減された敬老会

敬老会・招待者1人当たり公費負担額

	合併前		H27予算	H28予算	H29予算
	対象年齢	負担方式			
鶴岡	73歳	補助金	1100円	1100円	1100円
藤島	75歳	実委へ委託	3150円+記念品	2400円	2000円
羽黒	70歳	行政直営	2730円	1200円	1200円
榑引	71歳	行政直営	1855円	1400円	1400円
朝日	70歳	実委へ委託	2500円	2000円	1700円
温海	70歳	報償費	600円	1100円	1100円

※24年度で対象年齢は75歳以上、公費負担方式は補助金に統一。
喜寿(数え77歳)の祝い品(座布団)が廃止。

鶴岡市は平成28年度から32年度にかけて段階的に敬老会補助金を1100円に統一するとしてきました。藤島地域は補助金が大幅に減らされ、28年度に藤島地区は18町内会にアンケート調査をおこない、地区全体で実施が5に対し、町内会独自の9で、敬老会は実施しない4だったことから、地区実施をやめました。世帯数の少ない町内会では実施が困難となり、昨年度は下中野目がぎりぎりの12月24日に開催、越後京田は未開催になりました。地区開催では予算削減に、ロールケーキとまんじゅう廃止(渡前)や、賄い料理と飲み物、記念品などを節約しています。敬老会は本来、行政がお祝いすべきものであり、待っていたのに敬老会が祝われなかった高年齢者が出たことに、市長は痛みを感じるべきでしょう。

平成28年度 敬老会の地域別開催状況と 29年度予算額 ()内は1人当補助単価

地域	開催時期	開催会場数	実施主体	予算額(H28)	予算額(H29)	差額(H29-H28)
鶴岡	4月～11月	164	自治会 公民館 地区社協	1,860万0,032円 (1,100円)	1,871万5,000円 (1,100円)	+11万4,968円 (0円)
藤島	5月:1地区1町内会 6月:3地区 7月:3町内会 9月:11町内会 10月:1町内会 12月:1町内会 (未開催:1町内会)	22(4地区・17町内会・ふじの花荘) ※ふじの花荘所在地の町内会と施設で敬老会を2会場合同開催 ※1町内会未実施	各地区実行委員会・町内会毎	493万5,084円 (2,200円)	444万7,240円 (2,000円)	▲48万7,844円 (▲200円)
羽黒	6月第3日曜日 (H28年度は6月19日) ※4会場とも同日開催	4 泉地区・広瀬地区 手向地区・第四地区	羽黒地域敬老会本部実行委員会及び各地区の実行委員会	210万2,400円 (1,200円)	208万3,870円 (1,200円)	▲1万8,530円 (0円)
榑引	6月(第2日曜日)	1	榑引地域敬老会実行委員会	222万8,120円 (1,400円)	216万0,900円 (1,400円)	▲6万7,228円 (0円)
朝日	4月:1回 6月:8回	8会場で9回開催	2コミセン各2回及ひ5地区	208万7,302円 (1,900円)	187万5,916円 (1,700円)	▲21万1,386円 (▲200円)
温海	7月:1自治会 8月:2自治会 9月:20自治会・温寿荘 10月:1自治会 11月:2自治会	2 (26自治会、温寿荘) ※1自治会開催中止	各自治会ごと	236万4,054円 (1,100円)	233万2,792円 (1,100円)	▲3万1,262円 (0円)

庄内地方の凧文化 ⑬

たかが凧、されど凧の我が人生(三)

鈴木隆(小中島)

戦後、凧は長い空白時代を経て、忘れ去られていたが、再び息を吹き返したのは、昭和47年頃である。庄内では各地に凧作りの気運が高まり、古来より凧揚げが盛んな藤島地域の空には、他に先駆けて愛好会のような有志による凧揚げ風景があちこちに見られるようになった。中でも八栄島地区では、いち早く八民館(現活動センター)が子ども育成のメイン事業として位置づけ、鈴木昭男氏(農民写真家・故人)・太田辰吉氏(故人)を中心に、凧に長けた人が凧作り教室で子ども達に凧の魅力を指導したのは昭和45年からと記録に残る。

吉氏(うづどん市経喜者)や佐藤敏二郎氏(故人)がいて、毎年行われるようになった。凧が漸く軌道に乗り始めた昭和48年、オイルショックが起き、トレットペーパーが店から消え、凧紙も入手困難な状況から凧作りを中止せざるを得ない所も出た。

オイルショックが治まった昭和50年頃には、三川町東郷小学校で凧揚げ大会が学校行事として行われ、本間源吾氏(庄内凧創始者・故人)がPTAや子ども達に凧作りを指導して以来、現在も毎年2月に凧揚げ大会が行われていることは頼もしい。藤島公民館(現活動センター)では、昭和47年からふるさと教室で子ども達の遊びとして凧作りが毎年行われ、後に青少年育成会や小学校との学社連携事業に発展し、平成14年まで続いた。



八栄島公民館凧揚げ・昭和49年

私も昭和55年から平成5年までの14年間にわたり、この事業に携わり、子ども達と凧を楽しんだ事を思い出す。



藤島小学校凧揚げ大会表彰・昭和56年

酒田では、阿部敏夫氏(元国鉄職員・故人)ら凧好き有志で子ども会などに凧作りの面白さを体験させ、普及に務めたのも昭和47年からであり、連鎖的に凧が魅力を誘い、この年の正月、鶴岡青年会議所の鶴岡凧の会主催で子ども凧揚げ大会が赤川土堤で開催された。その中心メンバーに凧に精通していた工藤祐

中山道テクテク1人旅 17 真夜中の旅籠(旅館)

新町 齋藤留治

今では中仙道の宿場町を歩いてても、旅籠(はたご)と言っ看板を見つけたる事は滅多に無く、多いのは民宿と書かれた看板。

テクテク旅の私にとっては民宿も旅籠も同じようなものでしかないが、色々な事を見たり聞いたりして歩く中仙道は、自分にとって歴史への散歩道でもあった。

今は故人となつてしまつたが、漫画家で江戸風俗研究家でもあった杉浦日向子さんによると、江戸時代には旅籠も「本旅籠」と「平旅籠」に分けられ、本旅籠の方には給仕やお酌のための女性サービス係がいたそうで、弥次さん・喜多さん向けの宿屋か。

一方の平旅籠は、食事の提供だけで博打や女性からのサービス等は無い健全な宿ということ。

今でも「なに・講」というのが有るが、そんな旅人が泊まつた宿屋であつたそう。

私が歩いた中仙道には、江戸時代には69の宿場が有つたそうだが、道中で旅館に泊まつたのは3泊だけ(名称は明治屋・江戸屋等でした)。

どこも築100年以上と宿の人が言つていた旅館で、廊下を歩くときのミンミン音がして床が抜けないか、心配しながら歩かなければならないような建物であつた。

連日歩いて疲れているので、その日の記録のメモをした後は早く床に入

るため、真夜中には一度目が覚めるのが普通。

泊まつた宿のミンミン鳴る廊下を歩いてのトイレの帰りに、薄明かりの中に人と思いき者が浮かび上がっているのが見えたので、一瞬「見たこと無い幽霊か」と。

ぎよつとして立ち止つて、よく見直したら、立っていたのはその家のお婆さんで一件落着の真夜中でした。



『民報藤島』読者・障害者からの手紙

―あらためて憲法を学ぶ― 青山崇

先日、読者の障害者から手紙をいただきました。憲法施行70年経つた今なお光を当てない政治に静かに怒っていることに心うたれ、私だけのものにしておくのは勿体ないので、本人の了承をえて公開することにしました。

こんにちは。障害に負けず一人でがんばっています。社会保障も年毎にきびしくなってきました。高齢者、障害者、生活保護世帯の方にとって、苦しい世の中になつております。一方、役職つきの公務員になつている方は、富のくらしをしています。格差社会が心え

翌朝宿の人に聞く、「夜徘徊(はいかい)して自分達も困つている。宿屋も続けな」と飯を食えないので施設にお願をしているのだが入れない。何とかならないものか」と。

介護保険法の改悪で介護1・2は施設には入れなくなつてしまつたし、困つていた家族の顔を思うと気の毒でならない。でも、いい方法がある。事務次官まで務めた人をこきおろして罵倒して止まないアベ晋三政権のお友達になつたら」と。

います。世の中では、家族同士の殺人や近所のトラブルによる殺人事件、けいざい苦や生活苦の自殺、無理心中もふえています。山形県は全国で6番目です。むえん無縁社会なのです。自治体は、お金を配布するが、こまかな心のケアがない。団体でやれついでいる。

『民報藤島』を読ませていただきました。その中で、気になる項目がありました。共謀罪法です。表現の自由、信教の自由、学問の自由をさへはくし、「法」でしばりつけ、おかしなもの「たひほ」し、計画した「と」しても「たひほ」となります。

高速道で見たもの



戦前の第1、第2世界大戦に行おうとする今の政治与党、自民党と公明党はおかしいと考えます。今年7月に首都・東京都議選があります。来年にも行われる、衆院選ぜひよつせんとなります。トタトタつづきの自民党と公明党の都議の当選者はへるこ考えます。

予想ですが…。わが会の組織も、共謀罪法には反対ひよつめいしています。わが会、組織は、危ない組織、きらわれています。心

年金者組合鶴岡田川支部恒例の前進座を観る云は、今年が17回目だ。今回はあの山田洋次さんが監修・脚本の「裏長屋騒動記」という、落語を基にした喜劇だ。こんなに笑つた歌舞伎は初めてだったとは、みなさんの弁。▲17回は平成の数と同じなんだが、みんなそなうなんて言いながら通つた常磐自動車道。双葉町・浪江町は、もう6年を過ぎたのだ。高速から見ると静かだよ。真新しい家にも人影はなかつたぜ。荒れた田んぼの緑だけが目立つ。

▲もつと目立つのが黒いビニールの山だ。遠く近く2段3段と積まれている。早い物ではビニールを草などが突き破つているものもあると聞いたことがある。

や身体にハンディキャップがあり、仏法をとおして病気を克服し、世のため人のためにつくしています。遠くから見れば「ぎよつせつ(拒絶?)」されますが、何事も生徒さんだつて、社会人だつて、仕事や勉強に打ちこぶ事は誰にでもある事です。

青山さんは、いっばいべんきようされておるときいてあります。ますますのごかつやくを願っています。広告一部送付致します。

▲これが中間処理場かと、誰かの声。いや、その場所が決まらず持つていき場がないんだから、最終置き場だろうぜとは、俺の声。核のゴミは行き場がないが、再稼働してるぜ。

▲除染と称して土を削り取つて集めて物だが、農地で言えば一番大事な作土なのだ。農家はその作物の為に何年も苦勞して出来上がったものなのです。帰還できて元の作土にするこことが出来るか・ダメで放棄地となるか。帰還出来た町では、水を張つた所も見えたがね。

▲生業に先が見えて、子供らが還つてき、元の近所付き合いが出来る学校や役場が動き出すのに、もうどれぐらいかかるんだらうかネー。首相はこの復興無くして・・・なんてよく言うけどサ。今度は地元の人が大臣になつたがサ。担当大臣はどんな仕事をしてんだや。